

ツルハホールディングス(3391)



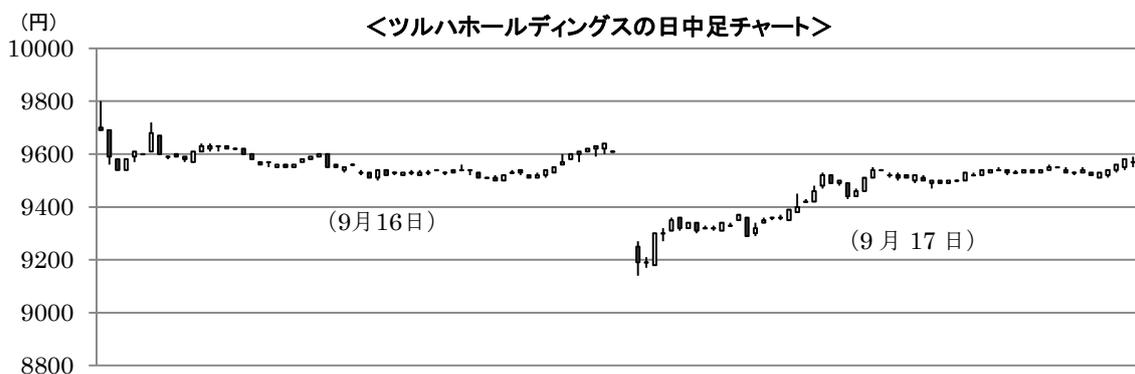
－ コンセンサス届かずで売られるも実はコンセンサスに近い内容か －

16日に第1四半期（6-8月期）決算を発表したツルハホールディングスの売上高は前年同期比11%増の1,231億円、営業利益は同21%増の86億円となりました。大幅な増収増益ですが、決算発表翌日の株価は一時5%近く下げる場面もありました。株価が大きく売られた理由としては、1四半期の営業利益が92億円のコンセンサス予想に届かなかったためとの解説もみられました。

しかし、コンセンサス予想の92億円と実績の86億円の差は、出店が前倒しになったことによる経費の差で、第1四半期の営業利益はコンセンサスに近い内容だったとみることもできそうです。この第1四半期の新規出店は31店舗で計画を6店舗上回りました。このため経費は社内計画を7億円上回っています。

31店舗の新規出店は売上高を計画比で13億円押しあげましたが、利益貢献はなかったと考え、この第1四半期では経費だけが先行したとみられます。したがって出店の前倒しがなく計画比で上振れた経費7億円の多くが必要なかったと仮定すると、営業利益はコンセンサス予想に近い数字となり、実はコンセンサス予想並みだったといえます。

第1四半期の営業利益は、経費が7億円計画を上回りながらも、1.3%増とみていた既存店売上高が6.2%増となったことなどで社内計画を7億円強上回りました。決算を受けての株価の反応は冴えませんでした。業績は好スタートを切ったといえそうです。



ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会